丑四月十一日　　眞田佐次兵衛　判
寺西清左衛門　判
堀三郎左衛門　判

前田大學殿
西尾隼人殿

右享保十年三月、右十郎右衛門養子願書付指出候砌、如此添紙面に而上之候に付、今度如此於御殿川嶋吉左衛門共致示談、奥書に而可上儀と存候得共、任舊例如此之旨申達、則右同日上置候事。

一、本阿彌十郎右衛門養子願書付入御覽候處、願之通可申渡旨被仰出候段、延享二年四月十三日於御家老衆席前田大學申渡候に付、前廉より河嶋吉左衛門申談置、於會所右之趣十郎右衛門に申渡可然由に付、則以紙面呼に遣、罷出候に付會所詰所に而申渡候。早速被仰出難有旨申聞候に付、御請紙面。

本阿彌十郎右衛門儀養子願之通被仰出候に付、則申渡候處、難有仕合奉存候旨、私共迄申聞候に付、御請上之申候。以上。

四月十三日　　眞田佐次兵衛　判
寺西清左衛門　判
御道中方御用
堀三郎左衛門

前田大學殿
西尾隼人殿

右享保十年三月御請には、津田玄蕃一人調扣有之候得共、吉左衛門談合仕、兩人可爲儀に付如此に候。

一、寛延元年本阿彌十郎右衛門養子願書付、御家老衆に添紙面を以九月十一日指出候處、同十三日願之通申渡旨、前田勘解由殿御申渡に付、於會所十郎右衛門に申渡、御請紙面出候事。右養子之名十次郎、歳二十二。

一五　公儀御預所上納金之儀覺

一、御預所御上納金、右奉行故障有之節は、會所奉行御使相勤候筈。御在府には御年寄衆等被仰渡、御留守には御留守居より被申渡。

竪紙に

御預け所御上納金、柘植儀太夫今日御金藏に罷出上納可仕處、御勘定所より御用御座候由申來罷出候間、如前々私共之内御金藏に可罷出旨前田兵部申渡、則私儀御金藏に罷出御金上納仕候所、納札一通久間佐兵衛殿被相渡候に付、右納札儀太夫に相渡申候。

但、右御金途中、御城使御歩古市金五左衛門指副申候。以上。

十一月六日　　宮崎久兵衛　判

半切に

御預所御上納金、當六日柘植儀太夫御金藏に罷出上納可仕處、儀太夫儀御勘定所に御用御座候而罷出候に付、私共之内罷出上納可仕旨前田兵部申渡候故、私儀罷出上納仕候に付、御使書一通上之申候。以上。

十一月九日　　宮崎久兵衛　判

横山大和守樣始十四人樣付

右御返書前田對馬守殿より來る。

一六　淺草日音院借上之儀覺

一、寛延元年江嶋屋太郎次由緒書紙面を以、朝鮮人來聘之節淺草寺内日音院に被爲入候半哉之儀、先年之趣等前田兵部に申達、達御聽候事。右に付度々兵部に迄及内談候事。

一、四月十七日兵部申談に而、右日音院に近日之内神保權五郎罷越候筈被仰渡候。何歟於日音院之儀拙者に可申談候。權五郎右御用主付に候。自分に茂右御内用主付相勤候樣兵部被申聞、同廿日晝後日音院に罷越候事。

一、江嶋屋太郎次先達而日音院に參居、内證申談置候樣に申渡、權五郎・自分并御作事奉行姉崎勘左衛門申談、自分并棟取田邊勘左衛門、御大工并棟取・御作事方御歩横目も相越候。此後度々日音院に罷越申談る。

一、五月廿一日朝鮮人江戸着に付、日音院に爲御見物被爲入、御供揃朝五半時。

獻上物

御干菓子三重・臺之上造り花　　日音院主より
御干菓子二品四重一組　　江嶋屋太郎次より
勢之佐殿に
ひげ籠二つ　ぴは・山もゝ　　同人より